

明石市行政DX（デジタル改革）推進方針

2022年度（令和4年度）

はじめに

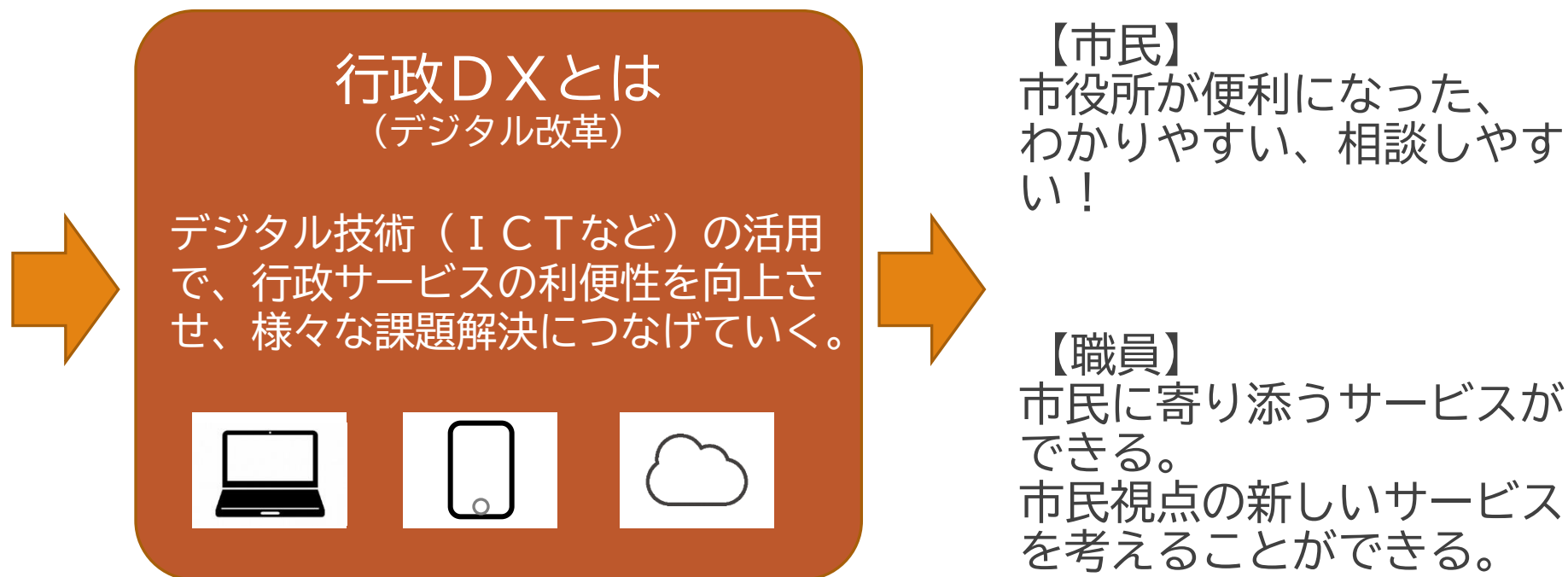
明石市の目指す行政DX（デジタル改革）とは

- デジタル技術の活用で、行政サービスをより便利により早く市民に提供する。
- 業務の効率化を図り、人的資源を市民に寄り添った仕事にシフトする。

(例)

【市民】
サービスは早く受けたいけれど、市役所の手続きが面倒・・・

【職員】
デスクワークに忙殺されて市民と向き合う仕事ができない・・・



【市民】
市役所が便利になった、わかりやすい、相談しやすい！

【職員】
市民に寄り添うサービスができる。
市民視点の新しいサービスを考えることができる。

背景と目的

デジタル化の進展

市民サービスを
より便利に より早く

社会全体の急速なデジタル化の進展を踏まえ、情報通信技術（ICT）を活用して、市民に身近な場所でサービスや手続きを提供

ウィズコロナ社会に対応し、支援を必要とする人に、より早く必要なサービスを提供

SDGsの推進

行政運営を効率化

SDGsの理念を反映した効率的・効果的な行政運営を実現するため、新しいデジタル技術を活用

新庁舎の整備を見据え、すべての人にやさしいスリムでスマートな行政運営体制を目指す。

国の動向

自治体DX推進計画

- ① 自治体DX推進計画の策定（2020年12月25日 総務省）
- ② デジタル改革関連法の施行、デジタル庁の創設（2021年9月）
⇒ 自治体DX標準手順書に記載の行政手続きのオンライン化、システムの標準化について進めていく必要がある。

今まさにDX（デジタル改革）による課題解決と新たな取り組みを進めるタイミング

推進の視点

市民視点の行政サービスの 実現

市民の多様なニーズに寄り添う行政サービスの充実を図る。デジタル化の取り組みを進める際には、アウトリーチを含めて誰一人取り残さない仕組みを考える。

デジタル化基盤の確立

社会全体のデジタル化の進展や国の自治体DX推進計画に対応できるよう、行政のデジタル化を支える基盤を確立する。

デジタル技術の活用による 行政運営の効率化

デジタル技術の活用による効率化・省力化を進め、それにより生み出される人的資源を市民サービスのさらなる向上につなげる。

主な取り組み

市民視点に立った 行政サービスの実現

(例)

忙しい子育て層がスマートフォンからいつでも行政手続きができるなど、市民の生活にあった便利なサービスを提供する。

行政手続きの
オンライン化
促進

文書の電子化・
電子決裁の導入

デジタル技術の活用 による行政運営の効率化

(例)

- ・紙ベースの業務を見直し、デジタルデータに置き換えて効率化を図る。
- ・新しい技術や機器などの活用により、事務の効率化、省力化を図る。

デジタル化基盤の確立

(例)

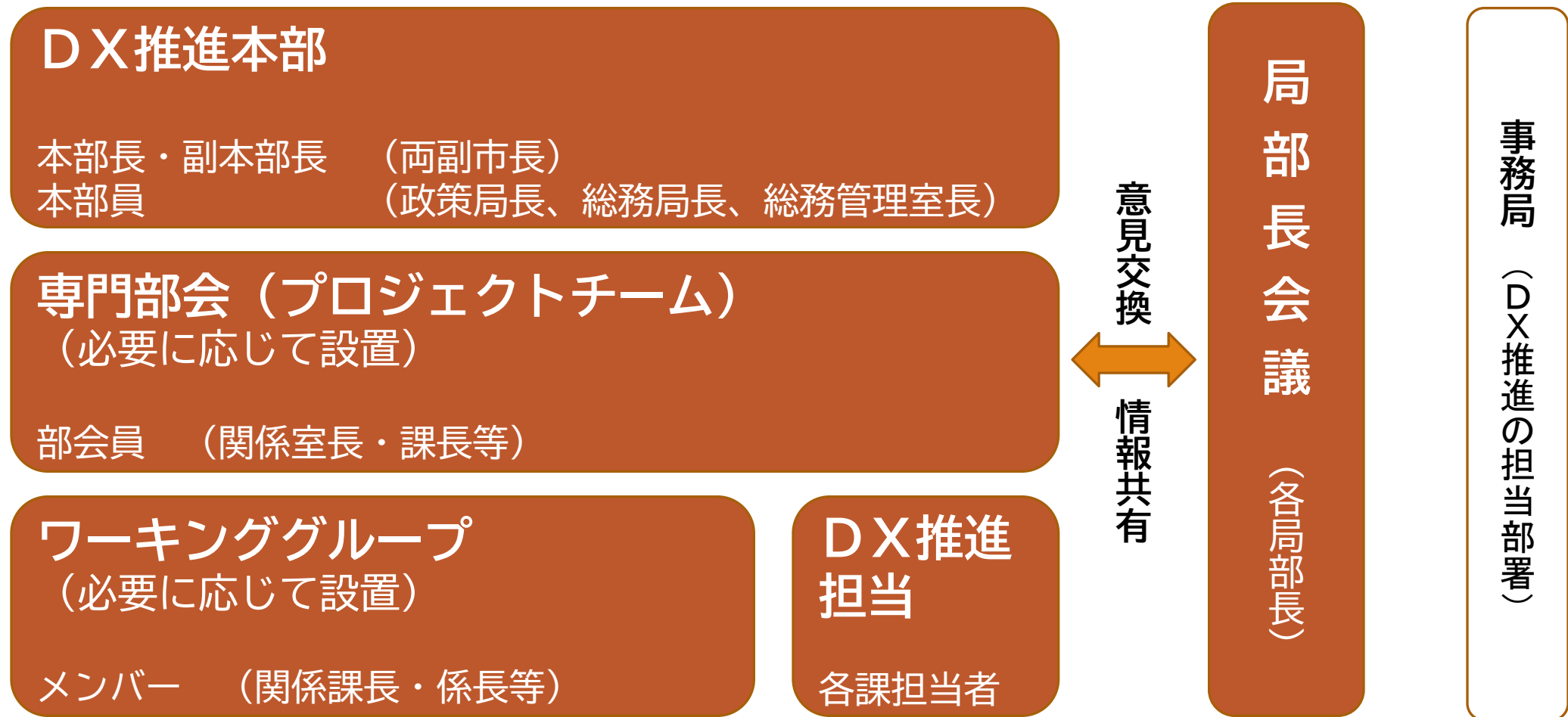
業務システムや事務の流れを全国共通の仕様（標準仕様）に移行するなど、自治体間で横断的にデータ連携し、迅速なサービスにつなげる基盤を作る。

民間のデジタル
サービスの活用

RPA・
AI-OCR
などの活用

情報システムの
標準化・共通化

DX（デジタル改革）推進の体制



さらに、職員研修の充実などにより、組織全体を体制面で底上げ

D X（デジタル改革）推進の今後の進め方

行政事務のデジタル化の促進

文書の電子化・電子決裁の導入など、事務の効率化・ペーパーレス化に向け、全庁的な取り組みを進める。

情報システムの標準化に向けて

2025年度の目標期限に向け、住民基本台帳や税などの基幹業務システムの標準化への対応を進める。



2022年度
(R4)

2023年度
(R5)

2024年度
(R6)

2025年度
(R7)

行政手続きのオンライン化の充実

電子申請を拡充し、市役所に行かなくてもスマートフォンなどで申請ができる手続きを増やす。

デジタル化を支える基盤整備

新庁舎整備や情報システムの標準化に向け、セキュリティの確保と機能的で使いやすい情報基盤の確立を目指す。

用語解説

用語	解説
DX (デジタル改革)	DXは、デジタルトランスフォーメーションの略。デジタル技術やデータの利活用、またそれに伴う組織や制度の変革が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。「Trans」が「横断する」の意味を持つことから、視覚的に「X」と略されるようになった。
ICT	インターネットなどの通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。
AI-OCR	書類や帳票に手書きで記載された文字をAIが読み取り、データ化する技術のこと。
RPA	コンピュータ上で行われる業務プロセスや作業を人に代わり自動化する技術のこと。